

講義コード	1116130003
講義名称	社会学B 03<秋> ※遠隔授業（オンデマンド型）
科目英文名	Sociology B
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	0SOC1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 土曜日 5 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
濱田 武士

授業形態	講義	アクティブラーニング	実務経験のある教員による授業①
			実務経験のある教員による授業① 政府・地方自治体、日本学術会議等の委員経験、データアーカイブの運営経験を持つ教員が政府および地方自治体での社会調査の実施・利用、政策について解説・講義する。

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)

講義・演習概要	●現代社会学の理論と応用 「社会学B」は「社会学A」の概論に対して、より私たちの社会生活に関わる具体的なテーマを扱う。全体を貫くキーワードは「個人と社会」である。 講義の前半では「私（つまり皆さん自身）」についての考え方を、社会学という学問からのアプローチから紹介する。後半は現代社会の具体的問題について社会的に考察する。 社会に満ちている「あたりまえ」や「ふつう」は私たちの思考や行動をどのように規定しているかを、社会的な思考法を学ぶことによって、学問的に捉え返してみよう。全15回で社会学が論じうる対象の幅広さと、その奥行きを感じてほしい。
学習（到達）目標	（１）「当たり前」とみなされている事象から「問い」を立てる力を身につけること （２）そのための武器（社会的なモノの見方、概念など）を習得すること （３）自分自身に関わる社会規範やステレオタイプから解放される感覚を味わうこと 以上を通じて社会に生きる「私（個人）」を位置づけ、そしてともに生きる「あなた（他者）」への想像力と感受性を育み、社会的な視点を身につける。

講義・演習計画

回	内容
第1回	はじめに――「個人」と「社会」の関係
第2回	資本主義と民主主義の誕生
第3回	社会認識の発展と社会学の誕生
第4回	権力と支配
第5回	近代化と自己と他者
第6回	リスク社会と個人化
第7回	情報化とメディア
第8回	工業社会の衰退と労働の変化
第9回	消費社会と感情労働
第10回	パーソナル・ネットワーク
第11回	宗教と社会
第12回	文化と社会
第13回	環境問題と社会運動
第14回	人種・エスニシティ

第15回	まとめ——社会学の未来
------	-------------

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
レポート	0%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	「その他」は授業内容に関するミニテストです。出題のタイミングと回数については、初回のガイダンスで担当者から説明があります。回答期限は厳守してください。なお、感染症等で、授業形態が変更になる可能性があります。
---------------	---

参考文献	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学（新版）』2019年、有斐閣、3,850円（ISBN 978-4-641-05389-2）近日中に改定予定。 間々田孝夫・藤岡真之・水原俊博・寺島拓幸『新・消費社会論』2021年、有斐閣、2,750円（ISBN 978-4-641-17461-0） 友枝敏雄・樋口耕一・平野孝典編『いまを生きるための社会学』2021年、丸善出版、3,800円（ISBN 978-4621305553） 中西啓喜・萩原久美子・村上あかね編、『大学生からみるライフコースの社会学』2024年、ミネルヴァ書房（ISBN 978-4623097807）
事前および事後学習の指示	授業の内容に関連する新聞やニュースを読んでおくこと。 授業時間外の質問はメールよりもM-PortのQ&Aが望ましい。平日に寄せられた質問は24時間以内に回答するが、土日祝日や長期休み中は返信が遅れる場合がある。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
キーワード	資本主義、民主主義、社会認識、権力、支配、近代、後期近代、アイデンティティ、情報化、メディア、工業社会、消費、労働、パーソナル・ネットワーク、宗教、文化、環境問題、社会運動、人種・エスニシティ
備考(管理者用)	(旧：社会学) 02～19生読替☆SW・SD生は履修不可☆遠隔授業（オンデマンド型）

講義コード	1121730000
講義名称	サステイナビリティ論　＜秋＞　※遠隔授業（オンデマンド型）
科目英文名	Sustainability Studies
開講責任部署	社会学部　社会学科
代表ナンバリングコード	0SOC1420
単位数	2.0
時間割	秋学期: 土曜日 5 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
巖　圭介

授業形態	講義	アクティブラーニング	実務経験のある教員による授業① 農水省の研究所で勤務経験のある教員が、その経験を活かして、温暖化や化学物質、水資源と、食糧問題を含む社会の持続可能性について講義する。
------	----	------------	--

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	---	------------	----------------------

講義・演習概要	SDGs、持続可能な開発目標は、よりよい世界を作るために2030年までに達成すべき17の目標を掲げたものである。すべての目標は相互に関連しているが、その中でも環境問題の解決は多くの目標をつらぬく最重要課題の一つである。この講義では、地球環境の諸問題をいかに解決していくのか、その現状と展望、限界について解説する。姉妹科目である「環境問題概論」のいわば「解決編」として位置づけられる。できればこの授業の前に「環境問題概論」を受講することをお勧めします。 なお、この講義は完全オンデマンド型で行う。毎週公開される講義動画を視聴した上で、資料の空欄を埋めていき整理するほか、その都度出題される小テストや小課題等を翌週の期限までに回答し、また不定期に課される課題も期限内に提出することが求められる。課題については、身の回りのことを調査して回答する形式を予定している。質問や感想、リクエスト等にはM-Port上で随時回答する他、授業動画内でも取り上げていくことでできるだけ双方向性を確保していきます。
学習（到達）目標	主要な環境問題（気候変動、エネルギー問題、ゴミ問題、人工化学物質汚染、食糧問題）についてその問題の本質を理解した上で、問題解決に向けて今なされていること、なされるべきことを説明できるようになる。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	イントロ：持続可能な開発目標SDGs
第2回	気候変動と持続可能性 1：現状と目標
第3回	気候変動と持続可能性 2：脱炭素への道
第4回	気候変動と持続可能性 3：続・脱炭素への道
第5回	気候変動と持続可能性 4：再生可能エネルギーをめぐる状況
第6回	気候変動と持続可能性 5：炭素に値段をつける
第7回	ゴミ問題と持続可能な消費 1：リサイクル法
第8回	ゴミ問題と持続可能な消費 2：LCA
第9回	ゴミ問題と持続可能な消費 3：循環型社会へ
第10回	化学物質汚染と持続可能性 1：農薬と化学肥料
第11回	化学物質汚染と持続可能性 2：リスク論
第12回	生物多様性の持続可能性
第13回	食料生産の持続可能性
第14回	まとめ：世界の持続可能性（最終確認テスト）

第15回	確認テストの解答解説、質問・コメントへの回答
------	------------------------

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	72%
レポート	28%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	受講確認を兼ねた小テストや小課題を毎回WebClassの機能を使って課す（提出期限は基本的に翌週の授業前日まで）。さらに期末（第14回）には全範囲について理解度確認テストを行うので、毎回配布される資料の空欄をすべて埋めて整理しておくことを勧める。また気候変動とゴミ問題については簡単なレポート的調査課題を課す。 双方向性を確保するため、情報提供を歓迎する。内容に応じてボーナスポイントを付与する。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.						使用しない

参考文献	環境省編『令和7年版 環境・循環型社会・生物多様性白書』（Web版）、東京商工会議所『ECO検定公式テキスト（改訂10版）』日本能率協会マネジメントセンター 2025、ロスリング他『FACTFULNESS (ファクトフルネス) 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』日経BP 2019年、他、適宜紹介する。
事前および事後学習の指示	動画視聴の退屈を軽減するため穴埋め資料（Wordファイル）を用意するので、授業前にダウンロードしておき空欄を埋めながら視聴してもらい、随時疑問に思うことなどノートを取り、授業後に復習すること。期末のテストでは全範囲にわたる出題をするので、資料を完成させ整理しておくことが大切である。日常目にする環境関連のニュースなどをチェックし、常に情報をとりいれるとともに授業内容との関連などについて考え、必要に応じて質問や情報提供してほしい。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	環境問題、持続可能性、SDGs、気候変動、ゴミ問題
備考（管理者用）	（旧：環境問題概論）02～20生読替☆遠隔授業（オンデマンド型）

講義コード	14D3520000
講義名称	財政学Ⅱ　＜秋＞　※遠隔授業（オンデマンド型）
科目英文名	Public Finance Ⅱ
開講責任部署	経済学部　経済学科
代表ナンバリングコード	FINC2410
単位数	2.0
時間割	秋学期: 土曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
木村　佳弘

授業形態	講義	アクティブラーニング	その他
			遠隔講義 PCスキル前提　（google formへの入力）

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--	----------------------

講義・演習概要	財政学Ⅰでは、租税について学び、家計・企業とくらべた政府の特徴を知りました。財政学Ⅱでは、「政府が借金をする理由」（公債論）を学んだうえで、「集めたお金をどのように使っているのか」（経費論）を、「くにのかたち」（政府間財政関係論）をふまえた上で学びます。その上で、政府の経済活動を国民がコントロールする仕組みである予算論について学びます。
学習（到達）目標	（１）公債論、経費論、政府間財政関係論、予算論に関する基礎概念を正確に理解できる。 （２）（１）を前提として、（１）に関する理論レベルの課題に対し、概念を正確に踏まえた上で、論理的な解答ができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス　3つのサブシステムと財政
第2回	経費論（１）　現代日本の財政支出
第3回	経費論（２）　国際比較から見える日本の歳出規模
第4回	公債論
第5回	財政投融资論
第6回	三つの政府（１）　三つの政府と政府間財政関係
第7回	三つの政府（２）　地方分権と地方行財政統制
第8回	三つの政府（３）　地方債
第9回	三つの政府（４）　社会保障基金
第10回	理解確認小試験とまとめ
第11回	予算論（１）　予算制度
第12回	予算論（２）　予算編成過程
第13回	予算論（３）　予算制度改革
第14回	日本財政の基本問題
第15回	試験とまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	
その他	100%

成績評価の方法 （コメント）	<制度上> その他 100% <実務運用上> 講義時試験 30% 講義内課題・講義内小試験 70% 学習目標の（１）（２）を正確に理解できているかに関し、理解確認課題を課します。具体的には、講義時試験（30%）、講義時課題（講義内小試験、毎回の講義内課題70%）の二つで評価します。 講義時試験は最終講義時に実施するもので、（１）に関しては正誤式、記述式（穴埋め問題）の形式で出題し、（２）に関しては論述式（論理構成が理解できているか、論理一貫性は確保されているか、日本語の妥当性等）問題を出題します。 講義時課題は、毎回の講義課題が理解できているかを確認するものであり、主に（１）を確認するために行われますが、講義によっては（２）を論述式で課すこともあります。 なお、参加者全体に裨益する貢献である講義への積極的な参加、具体的には講義資料を踏まえた上での発展的質問については、加点対象とすることがあります。詳細は第1回講義～第3回にて受講者に開示致します。
-------------------	---

テキスト

	著 者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備 考
1.	神野直彦	財政学	大学オンライン販売	9784641165816	有斐閣	

参考文献	高端正幸・佐藤滋『財政学の扉をひらく』有斐閣、2020年 池上岳彦編『現代財政を学ぶ』有斐閣ブックス、2015年 持田信樹『財政学』東京大学出版会、2009年
事前および事後学習の指示	講義前の予習資料は原則として開示します。 講義後、テキストで復習した上で、提示された問題を必ず解いて下さい。 この講義は遠隔講義（オンデマンド）であり、この講義はPCスキル（google formへの入力、動画閲覧環境、teamsへの加入・資料閲覧）を前提とします。PCが苦手な方、PC環境が整っていない方は他の講義の受講を御勧めします。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	（旧：財政学）02～10生読替（E・CBCC・J生のみ）☆遠隔授業（オンデマンド型）

講義コード	1560830000
講義名称	国際政治事情研究B　＜秋＞　※遠隔授業（オンデマンド型）
科目英文名	International Affairs Analysis B
開講責任部署	法学部　法律学科
代表ナンバリングコード	POLS2440
単位数	2.0
時間割	秋学期: 土曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
松村　昌廣

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの 詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。
	その他
	なし

講義・演習概要	ビデオその他資料を活用して、全体としては初級レベル、時として中級レベルの講義内容になるよう講義を進めます。もっとも、ここでいう「初級レベル」というのは簡単という意味ではありません。高校レベルの知識、大学生としての社会科学の思考や基本的知識を習得していることを前提にしています。この講義により発展途上国を対象とする地域研究において政治、経済、社会の諸側面から、いかに総合的な分析に取り組むかを実例を示しながら学生の理解につなげることを目標としています。
学習（到達）目標	政治学、社会学、経済学など社会科学の基礎をよく理解した学生を念頭に講義を行います。つまり、高校の世界史、日本史、地理、政治経済、現代社会などの関連科目をしっかりと学習してきたことを前提にしています。この講義では発展途上世界を比較分析に必要な基本的な発想、着眼点、分析手法を会得するためはじめに初歩的な理論的考察を行い、その後いくつかの重要なケーススタディーに取り組むます。しかし、広大な発展途上世界を全てカバーすることは不可能ですから、多様な理論の適用可能性、時事的重要性を考慮して、北朝鮮問題と中国問題を取り扱うこととします。

講義・演習計画

回	内容
第1回	国際関係論と地域研究
第2回	システム論的アプローチ　／　比較研究アプローチの危機・・・「理論の島々」
第3回	北朝鮮（1）朝鮮半島の戦略的位置付けと地理的要因
第4回	北朝鮮（2）朝鮮半島の歴史・・・戦争と平和の観点から
第5回	北朝鮮（3）北朝鮮の政治と社会
第6回	北朝鮮（4）北朝鮮の国際行動・・・不法活動を中心に
第7回	北朝鮮（5）北朝鮮と日本の関係・・・経済・金融関係をを中心に
第8回	北朝鮮（6）日本の安全保障に与える影響
第9回	中国（1）中国大陸の地理と戦略環境
第10回	中国（2）中国の歴史・・・戦争と平和の観点から
第11回	中国（3）中国の近現代史・・・国内的混乱と国際関係
第12回	中国（4）中国の現状・・・社会的不均衡拡大と政治的安定性の問題
第13回	中国（5）日本の安全保障に与える影響
第14回	中国（6）まとめ
第15回	全体のまとめ・試験

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	100%
その他	

成績評価の方法（コメント）	講師が設定した問題と手順で、受講生に講義で扱った内容を基に論述式の持ち帰りのレポート試験（3000字～4000字）の作成・提出を求めます。十分な時間（恐らく週末を含め7～10日以上）の期間を設定し、受講生が自分でとった講義ノートその他資料を見ながら、じっくり考えて作成できるようにします。
---------------	--

参考文献	随時、資料を提示する。
事前および事後学習の指示	松村昌廣『日米同盟と朝鮮半島』芦書房 松村昌廣『米国覇権の凋落と日本の国防』芦書房 松村昌廣『東アジア秩序と日本の安全保障戦略』芦書房
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	（旧：国際政治事情研究）02～19E・SS・SW・B・L・J生読替☆遠隔授業（オンデマンド型）

講義コード	1C30630000
講義名称	教養教育特別講義-現代中国経済と社会　＜秋＞　※遠隔授業（オンデマンド型）
科目英文名	Special Topic in Liberal Arts-Contemporary China Studies : Economy and Society
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	LBAT1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 土曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
李　晨

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	本講義は、ライフステージに沿って現代中国の経済と社会を概観する。具体的には、義務教育、大学受験、就職市場、結婚・恋愛問題、育児市場、介護問題など多岐に渡る中国社会および経済のあり方を分析し、日本人が抱く中国に関する疑問に答えることを目指す。また、近年取り上げられる中国国内のニュース等も扱うことで、中国の現状について理解を深めてもらうことも目標としたい。
学習（到達）目標	中国の現状について理解を深めてもらうこと

講義・演習計画

回	内 容
第1回	ガイダンス
第2回	第1部：現在中国経済と社会の歩み――1949年～1978年
第3回	第1部：現在中国経済と社会の歩み――1978年～
第4回	第2部：ライフステージに沿った現代中国の経済と社会を覗き義務教育制度（動画視聴）
第5回	受験戦争は幼稚園からはじまるって本当？？
第6回	第5回：教育熱が過熱するのはなぜ？
第7回	進学か失業？――急速に進む高学歴化と「就職難」
第8回	若者の労働意識―996、内巻、寝そべり族、そして35歳定年
第9回	中国の若者も恋愛・結婚離れ？
第10回	結婚するために必要なもの―愛か金か？
第11回	不動産市場―中国人にとって「家」とは何か？
第12回	人口減に直面する中国――子女を持つ理想と現実
第13回	親の面倒はだれが見る？――中国の介護問題
第14回	葬儀にまつわる文化と経済
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	
その他	100%

成績評価の方法（コメント）	その他：レポート課題、出席 講義への参加意欲
---------------	---------------------------

事前および事後学習の指示	配布講義資料を事前に読んでおくこと。 理解できない部分について、授業終了後の質問時間に質問すること
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	（旧：共通教養特別講義－現代中国経済と社会）02～19生読替☆遠隔授業（オンデマンド型）